

式 辞

仰ぎ見る残雪伊吹の山裾にも、少し明るい色がさし、梅の香りが馥郁と漂う中、本格的な春の息吹が間近に感じられます。

今日のこの佳き日に、ご多用の中にもかかわらず同窓会、育友会をはじめ多数のご来賓の皆様方のご臨席を賜りまして、ここに第35回岐阜県立大垣東高等学校卒業証書授与式を盛大に挙行できますことは、卒業生はもとより本校にとりましても、誠に喜ばしい限りであり、心より厚く御礼申し上げます。

また、これまでの三年間、卒業生の皆さんの成長をしっかりと支え、励まし、温かく見守っていただけました保護者様や、ご家族の皆様方、本日のお慶びと感慨は、ひとしおのものとして存じ上げます。教職員を代表いたしまして、深く敬意を表しますとともに、心よりお慶び申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました普通科、理数科の卒業生の皆さん、ご卒業、誠にめでたうございます。

皆さんが日々努力を積み重ね、それぞれに試練や困難を乗り越えて、たくさんの思い出に満ち溢れた高校生活を終えられ、本日ここに晴れて卒業式を迎えられたことに、心からお祝いを申し上げます。

顧みますと、昨年4月の始業式で初めて皆さんとお会いしました。この体育館に集合した3年生諸君を見て、落ち着いた雰囲気と適度な緊張感を感じました。ああ、素晴らしい学校、そして素晴らしい生徒たちだなと直感しました。その思いは今も変わっていません。

皆さんは大垣東高校に入学して以来、本校の教育目標である「社会のリーダーをみざすにふさわしい人間」に向かって、勉強に、学校行事に、そして部活動にと、ある時は切磋琢磨し、またある時は時間が過ぎるのも忘れて友と語り、涙し、力を合わせ、汗を流し、心身共に大きく成長されました。

この卒業式は、皆さん一人一人にとって、自分の将来への夢や希望に胸ふくらませながらも、自覚を新たに、力強く逞しく、社会のリーダーとなるべく、新たな努力への決意を固める最初の日でもあることを、心に深く刻み込んでいただきたいと思います。

また、同時に、皆さんを待ち受ける今の時代は、かつて無いほど人類の英知を必要とする閉塞状況にあることも、直視する必要があります。

広く世界を見れば、中東アラブ諸国の政治的不安、国と国、民族と民族との抗争、エネルギー問題や地球環境問題など、簡単には解決できない課題が、複雑に絡み合っています。

我が国を顧みれば、経済をはじめ社会の様々な分野において、従来の枠組みが制度疲労を来し、新たな社会構築に向けた、産みの苦しみの渦中にあります。

そのような時代であるからこそ、本校の校歌に謳われている、「情熱」「前進」「飛躍」「達成」そして「誠実」「献身」「努力」「徹底」により、確固たる信念と目的意識を持って生活し、健康で充実した人生を送って頂きたいと、心から願っています。

最後に卒業していく皆さんに、はなむけの言葉を贈ります。

「一念一念を重ねて一生なり」

この言葉は、江戸時代の肥前鍋島藩（今の九州佐賀県）で、武士としての心得について述べられた「葉隠」という口伝、口伝えの中にある一節です。

「一念一念を重ねて一生なり」

この一念とは一つを念じると書き、念じるの「念」という漢字は、「今」という字と、「心」という字が上下に結びついてできています。今という一瞬の心がこもった強い思いが一念であり、その今が次々とつながった連続が、今を生きるということであり、結果としての人の一生であると思います。

今の心を、そしてその自分を、大切にすることに気づけば、先々のことを迷うことなく、自分の人生を充実させる事になるのだと思います。

一つを念じる。「一念一念を重ねて一生なり」

大垣東高校卒業生として、高い志と誇りを持って、一念一念を重ねて、悔いのない素晴らしい人生を歩んでいただきたいと願っています。

それでは卒業生の皆さん、今日からは、わが大垣東高校は皆さんの母校であり、心の故郷です。これからは卒業生として、母校の一層の発展を見守り、温かく支えて頂ければ幸いです。

卒業生の皆さんの、希望に満ちた洋々たる前途を祝福して、式辞といたします。

平成二十三年三月一日

岐阜県立大垣東高等学校長

浅野 裕 司

